

十月十六日

室内目ざわりデザインまだ書く対象決まらず。今日中にあげぬとやばいのは解っているのだが、何故かその気にならないんだなあ。八時半地下に降りる。朝の光が地下に射し込んで気持ちが良い。これなら早朝は地下で過ごすことにしようかな。

午後大学でいくつかの用件。十七時東大生産研にて藤森照信と会う。本来は藤森先生が私をインタビュする筈であったが、ほとんど彼がしゃべっていたのが愉快。藤森は相変わらず独特な視角を持ち続けている。原広司先生設計の生産研の建築にはいささか失望する。その後、台湾料理店で上海ガニを御馳走になる。上海ガニのスープにライスを混ぜた料理が美味であった。しかし原稿のメが気になって気分は開放されず、藤森先生の諸説をうかがうばかりの羽目になった。マ、いつもの通りか。二一時過世田谷村へ戻る。女性三名によるプロジェクトに関して進め方、その他を説明する。上手くいってくれれば良いのだが。二三時過修了。原稿は書けず疲れて眠ってしまった。藤森のギャラ間出展の丸太模型をくれと言ったら、丸太が諏訪から来る事になった。

十月十七日

七時頃起床。室内原稿を書き始める。目ざわりデザインで自販機を書く。十時修了。室内長井に送る。ギリギリ・セーフ。十三時大学教室会議。

十月十八日

昨夜高橋工業社長世田谷村来訪。今朝から三階テラスの仕残したライン溶接をやってくれている。小雨の中檜垣が怒鳴られている。高橋流も私のところの若い連中には通じてくれないようだ。疲れが抜けない。

午後大学。広島市役所塚田さん来室。平岡前市長御元気との事。鈴木先生より電話。原稿余りのオクレの件もあり身もすくむ。シヤープ株式会社の方来室。コンペの件。鈴木了二からアーキグラムみたいなメディア作りましようよとそそのかされた。面白いだろうけどエネルギー消費するだろうな。若い人が駄目過ぎるので、おじさん世代が余計なことを考えてしまうのだ。夕方セバスチャン、コンバージョンプロジェクト打合わせ。今年のバウハウスの学生はしっかりしている。

十月十九日

<sup>5</sup>#朝山邸のチョツとしたアイデアが生まれた。久方振りの大物アイデアである。単発のアイデアでモノが作れる時代じゃないがそれでも様々に組み合わせれば大きく展開できるだろう。ガハハハの大笑だ。午後東大病院入院の佐藤健から電話あり。会いたいと言う。会いに来いと言う。こんな風にお前に頼むのは初めての事なんだからとも念を押す。今日来いと言うが今日はむづかしい明日行くと答えた。まだまだ生きるエネルギーは充分にある。私だつて刻一刻が記憶に残るような時間でありたいとは思っている。それは困難極まることなんだよナア。佐藤健が西域旅行は良い思い出になったと言うので湧いてしまった思いである。この思いを突きつめてゆけばハイデガーぐらいの思想哲学に結晶するのだろうが、別に結晶させなくてもおつてことない。ありのまま

良い。思想哲学が実生活の本体よりも上位のモノであるなんて事はない。哲学は生活の手鏡である。

十月二〇日

昨夜は早く寝てしまったので今朝は二時半に目がさめてしまう。読書しているうちに眠くなってきて又寝る。なんだか日本に居ながら時差ボケしている状態だな。朝、原口夫妻来宅。#1住宅の相談。要するに問題は土地の事らしい。今住んでいる家で余り良くない事が起きる。何故か、この土地に悪い問題があるようだ。中には京王線の工事のゴミが埋まっているらしい。お婆ちゃんが敷地内の井戸池を埋めてしまったのも気になっているようだ。地霊の気配を感じているのだが、その正体がゴミという事であり、土地の水気も殺してしまった事への後ろめたさになってしまっているようだ。この問題に取り組まなければ依頼者は納得しないのだろうな。面白いような、ただただシンドイだけのような。〇時半東大病院へ。一階で佐藤健夫妻とパツタリ会う。健さんは点滴のチューブも外して、自力で歩いてきた。病室で話を始めたが、入院してから一番頭も気持もクリアーで、話しも論点が明快で面白い。もう意識無意識が混濁状態だろうと予測して行ったので仰天である。話しもはずみ十六時半迄滞在する。何があったのだろうか驚いた。十八時過世田谷へ戻る。娘二人が今日は長野の藤森の実家へ丸太をもらいに行つて帰っていた。二人共藤森先生の縄文人振りに仰天して、今日一日の藤森先生の行動印象を夢中でしゃべくつている。娘を藤森にもつていかれた風だなこれでは。十九時半小平へ。菅原君通夜。西調布で時々会ったことのある青年で、幼児の頃から不治の病に犯され、一度も健康体に戻ることなく三四才まで、それでも生き延びて、遂に倒れた。私はこの青年

が好きだった。邪心が無く、死を覚悟しながらも精一杯生きた。今日は妙な一日だった。生と死の有体を現実の中で目の当りにした。仕切りに胸騒ぎがする。何がやってくるのだろうか。

十月二一日

薄暗く小雨が降っている。昨夜入院している佐藤健に言われた「お前この頃以前のようにほとばしるもの感じられないぞ」が重く沈澱している。年令だから仕方ないよ。今はそういう時代なんだからと答えはしたのだが、それは違う。やる事の順序を決めかねているんだと答えたのも違う。そう言われる原因は自分が一番知っている。今の健さんには何を言われても仕方ない。

地下ミーティングでは一つの現状の霧中停滞現象への打開策を打ち出そうとした。女性スタッフを核にして、私のホームページの中にもう一つの島をつくり、その島を拠点に意図的に現実社会とは遊離したメディアをつくる。メディア社会に向けたメディアだ。何故男性を核にしないかと言えば、彼等は現実社会への順応力があり過ぎて、逆に、それだからこそ方法的にメディア形成の核にはなりにくい。女性は制度的にも慣習的にも現実社会に受容され難い現実があるからこそ、メディアの核になる可能性が大きいと考えたからだ。マア何言ってるのか我ながら極めて怪しい気配が濃厚ではあるが、アディル・カルサヴィーヌの会以来長きにわたつて考えてきた事なので、ここらで矢を放とうと決心した。かくして、くらい鳥放送誕生。夕方編集方針決まり安藤編集長よりそれぞれに発注する。

十月二二日

朝、森の学校初期スケッチ、厚生会愛児園スカイポッドスケッチ

チ。スタッフに渡す。昼過大学へ。卒論&M指導。博士過程中国人学生、台湾人学生指導。十八時過世田谷へ戻る。

久し振りの地下でのスライド会。ガリボンとCY・LEEの中台禅寺。小さなモンスターと超巨大なモンスター。くらい鳥放送チームと第一厚生会愛児園より新しく依頼されたフローティング・モンスターの打合わせをする。笑う表情の研究から始めようという事になった。笑いを生み出す顔の筋肉の動きに関する情報面の笑いの仕組み。そして福笑いの起源と意味などを明日夕方までに調べて貰うことにした。このスピードはコンピューターの効能である。明日首相官邸で打合わせのため深夜沖縄計画の企画書をまとめる。

色々沖縄を調べるうちに、この島が女性主導つまり文化的には女性優位であつたらしい事が知れてきた。面白い。

ガリボン フローティングPODの設計に関して興味深い事に気がきつつある。ツリーハウスの設計から始まった事ではあつたのだが、要するに曲線曲面を使い始めると決め手がはなはだあやういのだ。と言うよりも何処で、どのようにして決定できるのかがあやふやになる。磯崎のモノローカーブのアイデアがどれほど先行的なものであつたのかは別として、結局彼は試みとしても曲面を使う事はなかつた。あつたとしても幾何学的曲面でしかなかった。知的な姿勢がそれを許さなかつたのだ。

フリーハンドの現代的意味を考えなくてはならない。ツリーハウスの建設に於いてすでに体験したように、フリーハンドの落書き状態スケッチを現代のコンピュータと製作技術は実現化、リアライズできる力を持っている。何でもアリの時代なのだ。デザインに正解の如きものへの神話・幻想があつたのが二〇世紀であつたとするならば、二十一世紀のデザインは不正解も又、正解の一つ

であるような、そんな時代になりつつあるようなのだ。クールな力オス状態とでも呼ぼうか。体温の無い死体状の、しかも力オスなのである。資本主義が到達してしまつた状態がこれだ。

十月二三日

N棟学生に沖縄長寿の源に関する情報を集めさせる。それと日本外国共にその方面の情報にエキスパートな人材に關しても。九時沖縄計画の企画書完成。十三時三〇分首相官邸。古川官房副長官面談。厚生労働省にて局長に面談。コーディネーターに適する人材を紹介してもらう。速い。十五時四十分霞ヶ関修了。大学へ。十勝後藤氏と会う。スノーボートの打ち合わせ。現実化には仲々難しい問題がある。面白いモノを作るのは大変だね。